

平成22年度実施事業の主な成果と今後の課題

第1号事業 地域の歴史の記録保存及び普及啓発

<情報の収集・提供>

1-2 写真・映像等資料の整理・活用事業 ……24 ページ

今年度からの新たな取り組みとして、新宿区の歴史・文化・街並み・地域行事などの現状を計画的に映像に記録・保存し、将来活用できるようにすることを目的に、区内各地の定点撮影、年中行事・文化施設等の撮影を10本行った。引き続き、地域別に記録・保存を行い、各種事業や観光事業などに活用していく。また、写真資料貸出しの実費相当分有料化に関しては、新宿区と調整しできるかぎり早期に実現させるようすすめていく。

1-3 ユビキタスネットワークシステムの推進 ……26 ページ

21年度より、QRコードを用いて試験的に博物館の展示資料や刊行物の案内を行ったが、22年度は「四谷文化ネット」参加計13施設（新宿歴史博物館・消防博物館・駐日韓国大使館韓国文化院・東京おもちゃ美術館・佐藤美術館・民音音楽博物館・新宿御苑・太宗寺・釣り文化資料館・アンパンマンショップ・ポートレートギャラリー・須賀神社・キムチ博物館）と周辺文化財、坂道計10か所の説明と地図情報を、QRコードを用いて紹介する携帯サイトを作成した。また前年度導入したQRコードによる博物館の情報を、随時最新のものに更新できるようシステム改良を行った。次年度は、落合地区のネットワーク化動向を踏まえ、落合地区の文化資源の顕在化、情報化をすすめる。

<機会・場の提供>

1-7 新宿区の歴史・文化の普及・啓発 ……44 ページ

(1) 展示会の開催 ……46 ページ

ア 特別展 ……48 ページ

新宿区の歴史・文化に理解を深めてもらうため、「佐伯祐三展 - 下落合の風景 - 」、「酒井忠勝と小浜藩矢来屋敷」の2つの特別展を開催した。

「佐伯祐三展 - 下落合の風景 - 」は、4月28日に新宿区立佐伯祐三アトリエ記念館が開館することを記念し、近代日本を代表する洋画家の一人である佐伯祐三とその業績を紹介した。会期は3月27日から5月9日までとし、下落合の自宅兼アトリエで描いた連作「下落合風景」を含む39点の作品を展示した。42日間の会期で6,054人（21年度の会期5日間で722人を含む）の観覧者を得た。

「酒井忠勝と小浜藩矢来屋敷」は新宿歴史博物館の大規模修繕に伴う空調停止のため、当初秋を予定していた会期を7月17日から9月19日までとし、矢来町にあった小浜藩下屋敷と、幕府大老として知られる小浜藩主・酒井忠勝、下屋敷内で生まれ、「解体新書」で知られる杉田玄白らの活動を紹介した。61日間の会期で3,249人の観覧者を得た。

2回の特別展総観覧者数は8,822人、一日平均の観覧者では85.6人となり、昨年度の81人を上回る観覧者を得ることができた。また昨年度に比べ収入額は191.1%と上回った。

今後とも、他館、他機関との連携や民間企画会社の活用とともに、協働開催・共催・後援等を得て、効果的な集客方法を検討する。

イ 所蔵資料展 …50 ページ

魅力ある展示会を実施し、親しまれる博物館づくりを推進するため、常設展示の他、所蔵資料展を開催した。この展示会は、所蔵資料の活用により、比較的低予算で展示会を開催し、さらに寄贈資料等の展示公開によって寄贈者等への謝意を表すことで、区民に博物館活動に対する理解を深めるものになっている。

22年度は3展示会で8,991人、5展示会を開催した前年度に比べて65.0%という結果となった。今年度は、新宿歴史博物館の大規模修繕による臨時休館（12月1日～1月31日）により開催本数が少なく、例年どおりの比較はできないが、今年度目標9,000人に対して達成率99.9%となった。また、大規模修繕に伴う空調停止のため、夏に計画していた所蔵資料展を秋に変更し、展示内容も写真展とした。さらに、臨時休館中も所蔵資料を公開、活用するため、新宿文化センター地下1階展示室を会場として、「新宿風景PART2」を開催した。

所蔵資料展は所蔵資料の公開・展示を軸とする展示会であるが、観覧者の志向や適時性、テーマ性を十分に分析し、今後も区内博物館・美術館・大学及び企業などとの連携も視野に入れ、魅力ある展示会を企画する。

ウ 協働企画展 …52 ページ

区内外の民間企業、公共機関、学校等との連携・協働により、各機関が所蔵する文化資源をより広く区民に紹介するため協働企画展を開催した。

今回は株式会社中村屋 CSR推進室の全面的な協力を得て、「新宿中村屋に咲いた文化芸術」を開催した。3月11日の東日本大震災の影響を受けたものの、2月19日～4月10日までの47日間の会期で3,350人（23年度の会期10日間で774人を含む）の観覧者を得た。また、展示会に関連する記念講演会、サロンコンサート、カーリー教室等、幅広い事業を合わせて実施することができた。

今後も区内企業や団体などの歴史や所蔵資料を調査し、協働企画者を精査し、魅力ある展示会を検討する。

<成果の活用>

1-11 博物館ボランティア …61 ページ

参画、協働による博物館運営を通じて、親しまれる博物館・記念館づくりをさらに推進するため、博物館ボランティアが年間を通じて活動している。22年度は、4月28日の佐伯祐三アトリエ記念館開館に伴い、新たに佐伯祐三アトリエ記念館ガイドボランティアを加え、5部会のべ226人（実数130人）が登録した。博物館ボランティアの部会は「林芙美子記念館ガイドボランティア」が38人、「史跡ガイドボランティア」が48人、「展示ガイドボランティア」が56人、「佐伯祐三アトリエ記念館ガイドボランティア」が47人、「事業サポートボランティア」が37人となっている。

22年度のボランティア活動日数は593日、延べ活動人数が1,782人となった。また、延べ活動回数は3,116回となり、前年度の1,197回を大きく上回った。

今後も参画・協働型の博物館運営に向けて推進するとともに、次年度から「事業サポートボランティア」の活動の一環として新たに「ガーデニングクラブ」を加え、活動の場の拡大を図る。

第2号事業 文化芸術の振興と地域の文化活動を通じた豊かな心の育成

<機会・場の提供>

2 - 1 音楽鑑賞の機会の提供 ……68 ページ

新宿文化センター大ホール、小ホール等で国内外の優れた音楽を鑑賞する機会を7公演実施した。これまでになかったジャンルとして、フォークソングを特集した『新宿フォーク・ジャンボリー』を開催し、30代から50の世代の方が多く鑑賞し、青春時代の懐かしい曲を楽しんだ。引き続き区民ニーズの情報収集に努め、新たなジャンルを提供する等、区民ニーズに沿ったプログラムを提供していく。3月12日に開催予定であった区民合唱団と東京フィルハーモニー交響楽団が共演する『戦争レクイエム』演奏会は東日本大震災発生による影響で中止となった。

2 - 3 ライフアップ講座 ……76 ページ

アンケート等の分析をし、ジャンルの幅を広げ、内容の幅と充実を図った60講座(全172回)を実施。特に人気が高く回数を増やした「カラー講座」、「手芸教室」や、定員の2倍を超えた受講申込み者全員にて実施した「ウクレレ講座」、「南高梅講座」など、特出した講座もあった。その中の「水彩画色鉛筆講座」、「健康麻雀講座」、「ウクレレ講座」、「マジック講座」から、新たに自主活動グループが誕生し、学習活動を継続するために生涯学習館や新宿文化センターへの登録を行った。一方でIT講習会の定員割れによる中止が目立った。

今後も地域のニーズの把握と地域団体等の活動状況の把握に努め、学習機会の場と活動機会の拡大を図るとともに新たな自主活動団体の設立を支援することで、地域コミュニティの活性化に寄与できる講座運営を目指す。

活動成果の発表

2 - 8 生涯学習フェスティバル ……86 ページ

区内で文化芸術活動をしている人々の成果発表及び区民が文化芸術に触れる機会を提供するため、「絵画展」をはじめとする6つの展示会と「音楽・コーラスのつどい」など3つの発表会、茶の湯の会、表彰式を行った。

「音楽コーラスのつどい」では、新規団体が7団体増え、賑やかな発表となったほか、「写真展」の展示作業も含めて、運営に生涯学習指導者・支援者バンク登録者のボランティア協力を得た。

「絵画展」においては、会場を区民ギャラリーから新宿文化センター展示室に移したことによって、文化センター大ホールに来ていた区民が絵画展(展示室)を訪れる流れができるなど、新たな入場者を獲得することができた。今後は、参加者の増及び満足度増のため運営方法の見直しを行っていく。

第3号事業 スポーツの振興と地域のスポーツ活動を通じた健全な心身の育成

機会・場の提供

3 - 2 区民健康マラソン・新宿シティハーフマラソン …94 ページ

地域に密着した新宿区のシンボリックな事業として、第9回大会を実施した。行政と地域が一体となった実行委員会形式による運営がなされ、ハーフマラソンの部・10kmの部は、公認大会として実施された。39都道府県から1万人を超える申し込みがあり、新宿のまちの情報発信に多いに寄与した。今回大会より10日間の区民優先期間を設け、区民参加の増を図ったことにより前年度比2%の区民参加率の増となった。交通規制の事前周知の強化のため、横断幕・立看板を12月中旬より設置し、周知チラシの近隣区への新聞折込や、ポスティングについても強化した。イベントについては、1万1,000人を超える来場者があり、80を超える団体・個人の出展(店)・出演があった。今後は、安定した運営を行うため運営体制を強化し、また安全な大会運営のための交通規制の徹底と沿道警備体制の強化を行う。第10回大会を記念大会に位置づけ、コース拡大とランナー以外でも楽しめるイベントの充実を図る。

3 - 3 新宿スポレク …97 ページ

体育の日に、区民が気軽に参加できるスポーツ・レクリエーションのイベントとして、新宿コズミックセンターや新宿スポーツセンター、都立戸山公園を会場として実施した。本年度も、延2万人を超える参加者が多様な種目に親しみ、スポーツ振興・健康づくりに対する意識の啓発を行った。新宿区体育協会加盟団体、NPO法人新宿区レクリエーション協会加盟団体等を中心に83団体の協賛、協力、出展があり、プロフェッショナルスポーツとの交流や人気キャラクターの着ぐるみ、バンド演奏等が祭典に彩を添えた。今後、実行委員会の活動の充実、また出展内容の刷新が求められる。

3 - 4 レガス健康づくり事業 …100 ページ

誰もが気軽に参加できるスポーツプログラムをコズミックセンターにて通年36講座を開催した他、全10回程度の短期講座「レガスポ! 20」を16講座134回実施。特に「レガスポ! 20」では、親子が一緒に参加できる講座や、参加者のニーズにあった新規種目、託児付きの講座などを積極的に取り入れた結果、募集定員を大幅に上回り、昨年度の2倍以上の参加者数を得ることとなった。また、子育て世代の運動支援を目的とした通年講座託児サービスでは、水・木・金曜日の午前中のほか、今年度より木曜日午後にも新設、子育て世代の運動支援の実現に取り組んだ結果、前年度比5%増の述べ111,241人の参加があった。

今後も通年講座や「レガスポ! 20」の充実を図りながら、区内施設で開講する「出張レガスポ!」を文化センターや地域センター等、新しい会場にて実施することを検証する。更には団体等の要望に応じ指定会場に出向いてスポーツ講座をおこなう「出前レガスポ!」を新規事業として拡充して実施する。また、ポイントラリーは指定管理事業として実施していく。

活動成果の発表

3 - 12 区民スポーツ大会 …109 ページ

区内の体育・スポーツ団体との連携により各種スポーツ大会を実施し、活動成果を発表する機会として、「区民総合体育大会」「小・中学生大会」に加え「ニュースポーツ・レクリエーション大会」を実施した。「区民総合体育大会」では40種目13,150人の参加があった。小学生陸上競技大会を「小中学生大会」より移行して区民陸上競技大会として実施し、またフットサル競技を新しく種目に加えた。小・中学生大会では、野球大会、サッカー大会のほか、昨年度に引き続き頭脳スポーツとして百人一首かるた大会を実施した。ニュースポーツ・レクリエーション大会では、トリムマラソンとNPO法人CS21との連携による子どもから高齢者、障がい者までの誰もが参加できるピポ・ユニバーサル駅伝を区民陸上競技大会と同時に開催することで聖地国立競技場をフルに活用した陸上競技大会となった。引き続き、学習系新種目ならびにニュースポーツ種目の大会実施に向け関係団体と協議を行っていく。

成果の活用

3 - 13 団体等と連携したスポーツ普及事業 …118 ページ

昨年に引き続き、スポーツ団体をはじめとする地域団体等との連携により、「健康ウォーキング」や「夏休みラジオ体操」など、多様な事業を実施・後援。特に「小学生陸上教室」では、国立競技場でのタイム測定や区民健康マラソンへの参加へと繋げるなど、多彩かつ積極的な取り組みにより、スポーツに親しむ喜びと達成感を多くの児童に提供することができた。今後も団体等と連携し、参加者数の増加や新規種目の追加等、さらなる事業の拡充を目指す。

また、新宿コズミックセンターを活用し実施した卓球教室・バドミントン教室・ソフトバレーボール教室・弓道教室については、指定管理事業(8号事業)として実施した。

第4号事業(次代を担う児童や青少年の育成)

<機会・場の提供>

4 - 1 子どもクラブ …120 ページ

財団統合前から実施し、継続した参加者が増えている「レガスクラブ」に、スポーツ・文化、総合学習、科学、食育などの各種子供向け事業を統合し、満足度の高い事業を目指し実施した。

今後もアンケート結果などをもとに、子どもたちのニーズに沿った種目の設定を行うとともに、参加者が継続して参加できる事業も実施して、クラブ活動の場を提供する。

4 - 2 放課後子どもひろば …124 ページ

20年度からの開始した5校(江戸川小・牛込仲之小・愛日小・落合第二小・天神小)を加えた16校に、本年度から5校(早稲田小・余丁町小・落合第三小・落合第五小・淀橋第四小)を新規に受託し、全21校の運

営を行った。

事業開始4年目ということで、いままでの経験を活かし、新規校についても順調に開始することができた。

自校登録率は21校平均で67.5%（前年度は16校平均で73.9%）であった。今後とも、生涯学習団体や地域等との連携事業で、生涯学習館登録団体による折り紙や、日本将棋連盟の協力による将棋の指導、隣接する中学校の生徒によるボランティア参加など財団ならではの多彩なプログラムを実施すると共に、新規校の自校登録率の一層の増加を図る。

親の就労形態に関わらない子どもの居場所づくりのために、“学童クラブ”と“放課後子どもひろば”の一体運営を目指し、東戸山小学校・大久保小学校内学童クラブ及び放課後子どもひろば委託事業者募集に応募した。選定には至らなかったが、今後も積極的に応募していく。

<活動成果の発表>

4-4 子ども・青少年音楽フェスティバル …144ページ

区内の子ども・青少年等を対象として音楽文化の振興を図るとともに、日頃の活動成果の発表できる機会を提供することで、参加者や団体同士の交流を図る目的で、「青少年プラスフェスティバル」と「子どもの音楽会」をそれぞれ開催した。

「青少年プラスフェスティバル」は小学校のプラスバンドから区民のプラスバンドまで10団体407名が出演。特に、友好提携の長野県伊那市から「長野県那市立春富中学校」が参加した。また、「子どもの音楽会」では、合唱や器楽の演奏団体15団体605名が出演した。

いずれも新宿文化センターに於いて開催し、出演団体からは、プロのオーケストラ等が演奏する舞台で発表でき、大変嬉しかったとの声が寄せられた。

なお、当日の入場者数については、「青少年プラスフェスティバル」が、当日は雨天で天候の悪いなか940名、「子どもの音楽会」は1,516名であり、各音楽会とも、区民が広く各出演団体の練習成果を鑑賞することで、子どもから青少年の音楽活動に触れる機会を提供することができた。

第5号事業 国際相互理解の促進

<機会・場の提供>

5-1 日本語学習支援事業 …150ページ

本年度事業参加者数(学習者および講座受講者)の目標において一般支援は96.8%の達成率であったが、子ども支援の達成率は44.4%に留まった。支援の場の拡大に積極的に取り組み、新宿区日本語教室を新宿区内10カ所12教室に増設(平成21年度は10カ所11教室)放課後の日本語学習等支援を小学1年生以上から受けられるようにした(平成21年度は小学3年生以上)。

支援にあたるボランティアの育成のためのボランティア養成講座には多くの申込みがあり、講座終了後に受講者が外国人住民の支援の輪に加わるなど、非常に関心が高い。

日本語学習を必要とする外国人住民は子どもから大人まで幅広い年齢層に渡っており、学習者に合った支援のあり方と、ボランティア活動の場の整備が求められている。

新年度に向けて、ボランティアを始め、学校、教育委員会、NPO団体等との密接な連携を図るとともに、学習者が支援を受けやすい仕組みづくりに取り組む。

5 - 2 外国人のための高校進学ガイダンス …158 ページ

本年度事業参加者数は59人で、目標達成率39.3%であったが、前年度比では31%増となった。日本での進学に不安を抱える生徒及び保護者に対し、日本の進学事情についての説明を行うガイダンスを2回実施。参加者には教育熱心な方が多く、進学に関して細部にわたり活発な質問がなされた。

2回目のガイダンスには、先輩高校生による体験談披露と交流の場も併設。年齢の近い高校生との交流は、進学を控えた中学生にとって気持ちをほぐすよい機会になったようである。

今後より多くの対象者に参加してもらうため教育委員会の協力を得て、ガイダンスの存在を効果的に周知していく。

5 - 3 多文化交流事業 …160 ページ

様々な国や文化を取り上げた国際理解講座を30回実施、合計583名の参加があった。外国人対象の講座の参加者数が伸び悩んだが、食を取り上げた体験型の料理講座は好評を博し毎回多数の申込みがあった。取り上げるテーマの選択と、外国人対象事業の周知が今後の課題である。

今年2回目となる「国際都市新宿・踊りの祭典」には32団体の出演と出店、2,109人の来場者を得て、新宿文化センター全館をあげての盛況なイベントとなった。来年度は実行委員会形式での実施を予定しており、区民とともに作り上げる財団ならではの事業として今後大きく成長させていく。

第6号事業 地域の魅力の内外への発信

<情報の収集・提供>

6 - 1 観光情報の発信 …172 ページ

新宿の持つ歴史・文化・産業・人材など多くの地域資源を活かした多様な魅力を区内外に発信し、観光による地域の活性化を図るために、平成22年度は既存の5地区別観光マップの日本語版を全区版として一冊にまとめた「五感で楽しむ 新宿観光マップ」(冊子型)を12万部作成した。また、今後の配布に向けて5地区別観光マップを19万5千部増刷し、約16万3千部を配布した。さらに、当財団のホームページに観光課の情報発信サイトを開設し観光情報の発信に努めた(年間ページビュー数、約3万3千件)。今後とも、より効果的なマップの周知手段の構築や魅力ある情報発信に努めたい。

平成22年9月9日に「新宿シティープロモーション推進協議会」が設置された。新宿の持つ歴史・文化・産業・人材等の多様な地域資源を掘り起こし、発信するとともに、新宿のまちの新たな魅力を創造し、多くの

人を惹きつけ、「ひと、まち、文化の交流が創るふれあいのあるまち」を実現することを目的としている。推進協議会の構成団体は、「新宿区観光協会」、「新都心新宿PR委員会」、「新宿区」及び「新宿未来創造財団」の4団体、事務局として「新宿未来創造財団」が運営を行っている。平成22年度の主な取り組みとしては、ポータルサイト「しんじゅくナビ」の開設と運営（年間ページビュー数、約1万8千件）他団体の活動の支援として「染の小道」実行委員会への協力、推進協議会構成団体間の事業の相互乗り入れとして「新宿芸術天国2010」、「第26回新宿御苑・森の薪能」、「ふれあいフェスタ2010」等への協力を行った。また、推進協議会設立PR企画として「第9回新宿シティハーフマラソン」、「東京マラソンEXPO-2011」において新宿の魅力の発信等を実施した。今後とも、引き続き推進協議会の運営を通じて新宿の地域資源の発信に努めたい。

<機会の場の提供>

6-3 新宿ぶらり探訪(総括) ……174ページ

学芸課では、「歴史・文化探訪」として博物館ボランティアの企画運営による歴史や文化財の紹介を中心とした史跡巡りを11回実施した（定員880人、応募者722人、参加者530人）

観光課では、「新宿ぶらり散歩塾」として地域の産業や観光資源に視点を当てたまち歩きツアーを4回実施した（定員120人、応募者152人、参加者112人）

今後は、より幅広く魅力的なテーマやコースを企画し、区内外への情報発信に努めたい。

<成果の活用>

6-6 観光案内制度の整備 ……195ページ

平成21年7月より、新宿の持つ地域資源を活かした多様な魅力を区内外に発信し、観光による地域の活性化を図るため運用を開始した観光案内拠点は、平成22年度には生涯学習館等を合わせて15か所増やし51か所となった。今後は、観光案内拠点の実情や特性に合わせた支援や運営を行い、企業等との連携を行いながら区内外への展開を図りたい。

平成21年7月に「新宿まち歩きガイド運営協議会」が設置された。ひと、まち、文化の交流が創るふれあいのあるまち新宿を実現するために、新宿の持つ歴史・文化・産業・人材等の多様な地域資源を掘り起こし、区民及び来街者の関心を高め、おもてなしの心で新宿のまちを案内することを目的としている。当運営協議会の構成団体は、「NPO法人 粋なまちづくり倶楽部」、「江戸東京ガイドの会」、「NPO法人 東京シティガイドクラブ」、「新宿区」及び「新宿未来創造財団」の5団体、事務局として「新宿未来創造財団」が運営を行っている。

平成22年度は、「新宿まち歩きガイド運営協議会」において、希望者からの依頼によるまち歩きツアーを16回（参加者263人）、区内のイベントと提携したまち歩きツアーを10回（参加者556人）、合計26回（参加者819人）実施した。

また、四谷地区協議会における四谷観光ガイド実行組織準備会の組織化への取り組みに対し、継続的な支援

を行った。今後は、「新宿まち歩きガイド運営協議会」によるまち歩きツアーの質・量を充実するための制度や体制の整備、四谷観光ガイド組織の当運営協議会への参画実現に努めたい。

6-7 レガスガイドボランティア …198 ページ

平成22年度からの新規事業として、新宿の魅力を区内外に発信するガイドボランティア事業を発足した。現在の博物館ボランティア登録者のうち、特に観光に関心の高い人材を中心に14名で運営を開始した。平成22年度の活動実績として、研修会の実施（「新宿区の地場産業及び商店街の現状について」、講師は新宿区地域文化部産業振興課職員）、「新宿ぶらり散歩塾」への従事（4回、延べ26人）、「新宿まち歩きガイド運営協議会」への従事（5回、延べ8人）及び当財団事業「健康ウォーキング」への従事（2人）等を行った。

第7号事業(地域社会の健全な発展の促進)

機会・場の提供

7-1 障がい者支援事業 …200 ページ

「新宿青年教室」では、昨年度に引き続き宿泊体験で群馬県沼田市を訪問し、地元の知的障がいのある方とのレクリエーションにより相互交流を図った。また、新宿角筈地区の新春の集いに参加し、地域住民の方とのコミュニケーションを図ることができた。

また、「障がい者スポーツ・学習交流事業」において、コズミックセンターの施設を使ったスポーツ教室やプラネタリウム観賞会のほか、区内の企業・団体の協力のもとスポーツ観戦、コンサート観賞、マジックショーなど、新規4講座を含む11講座を実施し、述べ2,862人の参加があった。

7-3 民間等と連携した機会提供事業 …209 ページ

都内で活動している企業、NPO、各種専門学校や協力・連携団体、行政機関等と連携・協働し、区民の関心の高いテーマや時事性のあるテーマを取り上げて実施した。

例年好評を得ている「株式・証券等知識の普及・啓発講座」については、本年度は一時保育を伴う講座や、年代を絞った講座として実施し、また学校施設を活用し、コズミックセンター以外でも実施した。

新宿文化センターを活用し、専門の合唱指導者に依頼し、著名な交響楽団等と連携して例年実施している一般参加型合唱団の運営事業を本事業に位置づけ実施した。本年度は区民の参加費用を区外の方に比較して安くすることで、区民の割合を増加することが出来た。

次年度についても、時事問題、社会的課題、地域課題を掘り起こし、継続的展開が見込める連携先を発掘し、単発の企画に終わらないように連携団体等との継続的な関係を維持していく。

企画内容についても、区民意識調査や参加者アンケート等から、区民ニーズや生活課題・学習課題を抽出し、地域団体等との連携による具体化を図ることで、区民参画による学習機会の場づくりを目指す。

7-5 地域活力推進事業 …215 ページ

総合型地域スポーツ・文化クラブの育成については、地域スポーツ・文化協議会の構成団体による合同イベントの実施により、協議会の組織作りを推進した（四谷）。また、地域団体による放課後子どもひろば事業でのプログラム実施により、ひろばとの連携を図った（若松・柏木・筆筈）。

学校施設開放では、延べ利用件数が前年度比110.3%の22,834件であった。今後は、開放に消極的な学校に働きかけ、より一層の開放増を進める。また、学校施設の管理を地域団体・人材で行うようコーディネートし、平成23年度より四谷中学校学校施設管理の一部を地域団体が請け負うこととなった。今後、住民自らが参画者として施設の利用調整・事業提供を行う仕組みの構築につながるよう支援していく。

学校プール開放では、「放課後子どもひろば」実施校全校(校舎等工事による開放不可能校除く19校)において、一般開放を行った。工事の影響により、前年度より1校減となったものの、参加者は前年度比129.7%の9,776人であった。

<活動支援>

7-7 地域との連携事業 …224 ページ

(1)地区協議会等との連携 …226 ページ

平成20年より3年計画で、まち歩きの企画実施、リーフレットの作成、写真展示等、区内10地区の地区協議会等と協働事業を実施してきた。22年度は12月1日から1月31日までの新宿歴史博物館大規模修繕による臨時休館中、「出張博物館事業」として、榎地区、若松地区、四谷地区、戸塚地区、筆筈地区で地区協議会、特別出張所、地域センター管理運営委員会等と連携をし、講座、まち歩き、展示会等を開催した。このほか小学校でも展示会を開催する等、11の連携事業を実施した。「出張博物館」として地域でまち歩きや展示会を企画できたことで、地域での期待感が高まり、今後の場と機会を展開する土台ができた。引き続きまち歩きや展示会実施に際し、地区協議会、地域センター管理運営委員会等との連携をより強化し、人材育成や活動の機会を創る取り組みを図っていく。

成果の活用

7-10 人材バンクの充実 …238 ページ

文化・スポーツ、国際理解や芸術などの幅広い分野で地域人材を発掘・登録し、地域住民の生涯学習活動を支援、地域社会における人材交流、人的活力還元の仕組み構築を推進した。

登録者の資質向上のためのレベルアップ講習会を実施し、288人が参加。登録者数は527人、活動日数は延べ4,180日に上った。制度案内のためパンフレットも作成し、区内各所への配布を行った。また、効果的な人材情報の公開・制度の周知を検討するため、他自治体の調査を行い、平成24年度に予定している人材情報公開システムの開発の具体的な検討に入った。

第8号事業(新宿区から受託する施設の管理運営に関する事業)

<情報の収集・提供>

8-1 施設貸出システムの運営 …245 ページ

屋内・屋外スポーツ施設、文化センター、学校施設、生涯学習施設、学校施設開放等の複数の施設貸出システムを統合し、一体的な施設・利用者管理を可能とする新しいシステムが開発され、財団のどの事務所からも財団管理施設の包括的な管理が可能となる基盤が構築された。また、新システムでは利用者の利便向上のため、利用料金の支払いについて新たにインターネットを通じた決済(ネットバンキング及びクレジットカード)の導入、また、原則24時間の予約受付が採用された。また、新システムは講座予約及びチケット予約の管理機能を有し、新たにコズミックセンター及び歴史博物館でのチケット発券を視野に入れた運営が可能となった。今後も利用者の意見を取り入れ、また財団職員の業務の効率化を目指した更なるシステムの改修に取り組むことが求められる。

<機会・場の提供>

8-2 新宿歴史博物館の運営 …247 ページ

新宿区の歴史・文化の継承及び普及・啓発を図るため施設の適正な管理運営を行うとともに、協働と参画による事業を展開し、親しまれる博物館づくりを推進してきた。

22年度は12月1日から1月31日までの期間、大規模修繕による臨時休館をしたと共に、この修繕に伴い、空調設備が使用できなくなったため、10月1日から1月31日まで計4か月間講堂貸出しを休止した。このため入館者数は45,180人、前年度対比87.3%となったが、22年度の目標であった42,000人には達した。また講堂の利用稼働率は58.8%となった。

臨時休館中、博物館利用者の利便性向上をめざし、館入口脇の4か国語表示利用案内板新設、展示室、講堂等の床カーペットの張り替えを行った。またエネルギー省力化のため、省電力照明機器への切り替えも併せて行った。

博物館の愛好者への場と機会と情報を提供し、身近で親しまれる博物館づくりを推進するため設置している博物館友の会は、会員数が本年度目標の320人を超え、348人となった。今後もPR活動を積極的に行い、さらに会員数を増やしていく。

今後も一層のエネルギー省力化を進めるとともに、更に魅力ある事業を実施、充実させ、地域等へ出ていく「出張博物館」等を積極的に行い、身近で親しまれる博物館、魅力ある博物館事業を展開していく。

8-3 林芙美子記念館の運営 …254 ページ

林芙美子記念館入館者は10,441人となり、目標数値12,000人に対し、達成率は87.0%、前年度対比87.9%となった。19年度より石蔵のミニギャラリーとしての公開や、庭園部分の改良工事実施により、開館当時(平成4年3月)の草花を再現し、山野草を中心に四季折々の庭園植栽を来館者に提供するなど、

記念館の魅力を高める工夫を行うとともに「記念館関連事業」として事業を積極的に展開しており、来館者の増員に努めている。22年度にも裏山のバラ補植を行い、魅力の増進に努めた。

22年度の林芙美子記念館を活用した事業は、落合散策等の落合文化資源ネットワーク事業、庭園鑑賞会、特別内部公開、朗読会を行った。各事業ともに高い人気を得て、記念館の周知と来館者増に寄与することができた。今後も、報道機関への情報提供など、積極的かつ効果的なPR活動を今後も展開するとともに、さらなる魅力ある事業を実施し来館者満足度アップを図る。

8-4 佐伯祐三アトリエ記念館の運営 ……260 ページ

22年4月28日より一般公開となった。適切な管理及び運営を行い、画家・佐伯祐三の偉大な功績を讃え関連する資料を展示してその業績を区民等に伝えるとともに、落合地域の芸術・文化の向上発展に寄与することを目的として開館した。22年度は来館者9,307人となり、当初目標の7,000人を大きく上回った。

公園内の記念館として制約はあるが、利用者の利便性を高めるため、館内案内板の増設、床面カーペット化を実施した。今後とも来館者の満足度を高める魅力ある展示や企画を行い、広報活動を充実させ、来館者の確保を図る。また、林芙美子記念館を核とした落合地区の文化資源ネットワーク網の拠点として、近隣の文化施設や文化資源と連携を図る。

8-5 新宿文化センターの運営 ……262 ページ

年間利用者数は、大規模公演の連続利用があった事もあり、前年度比111.7%の492,212人の利用人数であった。一方、貸切利用の稼働率は前年度実績の74.8%を下回る71.2%となった。主な施設としては、前年度並みの78.0%であったが、第3会議室、第4会議室等が前年度実績を下回った。今後は空き区分の事業活用や、更なるPRを行い高めていく。

利用団体からの要望が強かった大ホールホワイエに大型モニターを2台設置や利用者の交流スペースとして1階ロビーに新たにテーブル、机を購入した。また、屋外掲示板を電子化や新たに東新宿駅構内に案内板を設置し、イメージアップを積極的に行った。

指定管理事業としては、実行委員会形式で運営した「新宿文化センターまつり」や「ランチタイムコンサート」等の5事業、延15回実施し、延4846名の参加があった。

8-6 プラネタリウムの運営 ……269 ページ

利用者数拡大のため積極的に広報周知を行い、ホームページコンテンツの充実を図るとともに、情報誌等記事掲載やラジオ出演等を行った。

学習投影や一般投影においては既存の番組投影に加えて、都派遣教員による星空解説や星や宇宙に関する季節や時事的な話題に即した内容を盛り込んだ。

活用事業における年11回の星空コンサートについては、魅力と技術を備えた演奏家等により実施、年2回

の星空おはなし会については、区内で活動する地域住民団体により実施した。どちらも年間登録者のボランティアによる、機器の操作、ナレーション等による運営体制を試み、区民が芸術に親しむ場であると同時に、生涯学習における活躍の場づくりとなるよう実施した。

今後は、機器更新について関連他部署に検討依頼するとともに、集客力のある番組について調査し、導入を進めていく。

8 - 7 新宿コスミックスポーツセンターの運営 ...275 ページ

平成22年度の利用者数は538,893人であり、平成21年度の利用者数(554,604人)に対して97.1%、15,711人の減という結果であった。また、成果指標の利用者数569,000人に対しては94.7%という結果となった。

3月に発生した東日本大震災の影響により、1日臨時休館し、3月22日から避難所として全館休館となったことを主要因に、3月の利用者数は平成21年度同月比で24,319人減となった。

大会議室および小会議室の稼働率について、大会議室は65.4% 71.5%に、小会議室70.5% 71.9%にそれぞれ上昇した。特に小会議室においては、壁と床の張替え、椅子の更新を行い、「会議室」として雰囲気を一変し、利用向上努力を行った結果、稼働率が向上した。

施設の改善として、上記に加え、多くの人々が利用する1階のトイレに暖房付温水便座を取り付けた。また、1階の喫煙室内の換気の効率を良くし、館内へ煙が漏れないよう整備を行った。

加えて、地下1階の廊下に情報交換と発信の場として「情報ボード」を設置し、幼児体育室内へは幼児と親が楽しく利用できるよう「お絵かきボード」を取り付けた。更に、多目的トイレ内での喫煙防止のため、炎(煙)感知器を設置し、防火および禁煙の啓発をした。

平成23年度については、節電に関する社会的要請を鑑みながら、利用率向上策の計画と実施を進めるとともに、アンケート等により意見を集約し、利用者の利便性、快適性の向上を図る。

生涯学習施設の拠点として施設に親しんでいただくイベントとして、「レガスマつり」を実施し、参加協力団体15団体、のべ9,176人が参加した。またランチタイムコンサートを5回実施し、のべ210人が参加。同事業は平成23年度も定期的に実施することで、新たな利用者の開拓を図る。区民にスポーツの楽しさを手ほどきする入門としての「スポーツ教室」は、バレーボール、卓球、バドミントン等5種目を実施し、のべ3,132人が参加した。

8 - 8 大久保スポーツプラザの運営 ...282 ページ

平成22年度の利用者数は78,738人であり、平成21年度の利用者数(78,245人)に対し100.6%、493人の増という結果であった。また成果指標である施設毎の利用率等の達成率の平均は103.7%と和室に関する利用率(成果指標55.0%、実績43.9% 達成率79.8%)を除き、計画を上回った。

快適な施設環境づくりを目的に、トイレに暖房付温水便座の取り付けを行った。また節水を目的に、洗面所において蛇口への接触がない自家発電式の自動水栓とした。加えて節電を目的に、一括スイッチにより開館中点灯していた、男女トイレと更衣室の照明に人感センサーを取り付け、不要な点灯を減らすようにした。

設備においては、ロビーにマッサージチェアを設置し、利用者の快適性の向上を図った。

また、和室の利用向上を目的に、和室での会議など利用しやすくするため和室用のローチェアと椅子の導入

や畳の入れ替えを行った。加えて、指定管理事業として23年度に予定している和室での落語の講演を試し、20名の参加者を得た。和室での落語の講演については、新宿文化センターの同公演と連携しながら認知度を高めると共に、アンケート等により意見を集約し、平成23年度も和室の利用向上に取り組んでいく。

8 - 9 野球場・庭球場の管理運営 …289 ページ

西落合公園庭球場及び甘泉園公園庭球場、落合中央公園庭球場は3施設合計で88.1%と高い稼働率を維持している。課題としては、甘泉園公園庭球場の全面改修（オムニコート化）を21年度実施したが、水溜りができるため、晴れてもしばらくコートが使用できないことがある。また、落合中央公園庭球場は全体的にコートが凸凹になっているので、対策として改修などコート面の整備を進める。

西戸山公園野球場及び落合中央公園野球場については2施設合計で73.0%の稼働率となっているが、土・日曜日、祝日に予約が集中しており、平日日中の稼働率を上げることが課題である。

また、夜間の利用率が高いことから、通年でナイターが使用できるように地域町会等に働きかけを図りたい。運用面について、日程調整会議を開催し、適正な施設利用枠の配分を目的に、区内の優先団体と調整を実施した。

今後も、利用率向上策の検討と実施を行っていくとともに、アンケート等により意見を集約し、利用者の利便性、快適性の向上を図りたい。

8 - 12 生涯学習館の運営 …302 ページ

地域の生涯学習活動の拠点施設として、区内の生涯学習館6館を運営。区民の生涯学習活動を支援しつつ、利用団体の活動成果発表の場として各館で「生涯学習館まつり」を開催した（西戸山生涯学習館は中止）。施設の稼働率については、全体で85.8%、前年度と比較し3.1ポイントの増となった。利用人数は、工事による休館などの影響によって、前年度実績を下回った。

生涯学習館まつりについては、東日本大震災の影響で西戸山生涯学習館での実施は見送ったが、他の5館においては参加団体数・延べ来場者数共に前年度を上回り、生涯学習活動の成果発表の場を提供することができた。

平成23年度に向けては、活動団体の高齢化・会員数減少がみられる中、団体同士のつながりを築くためのきっかけづくりに着手し、継続した生涯学習活動を支援していく。

<活動成果の発表>

8 - 13 ギャラリーオーガード「みるっく」の管理運営 …311 ページ

生涯学習活動をする団体の発表の場として、広報紙や生涯学習館の周知活動により展示を希望する団体が増加した。財団事業において、生涯学習館が9月に「生涯学習館まつり展」、青年教室が3月に「青年教室作品展」をおこない、活動者の発表をおこない、手工芸品、絵画、書と多分野にわたる作品を展示した。

展示ボックス照明のLED化、展示ケース内のLED化工事が終了し、ギャラリーオーガード「みるっく」内が明るい空間に生まれかわった。

第9号事業(その他財団の管理運営に必要な事業)

<情報の収集・提供>

9-1 広報・広聴の充実 …313 ページ

財団広報紙「h!レガス新宿ニュース」については、機能統合の事業数増加にともない、フルカラーで年18回の発行に変更し、特集記事、コラム欄、イベントレポート等を織り交ぜ、読み物としての紙面の充実を目指して、読者に伝わりやすい紙面づくりを行った。また、新規読者層を獲得するため、財団の各広報媒体での連携を強化し、特にホームページでの広報紙バックナンバー紹介を、見やすい形に改め、同ページ内でバックナンバーと講座システムを連動させることにより、誰でも簡単に興味ある講座にすぐエントリーできる環境を整えた。

メールマガジンについては、各利用者の興味に対応したきめ細かな情報発信を実現するなど、インターネット環境を利用した情報発信との相乗効果を図った。メールマガジンの登録者も3月末現在の登録者数が3,588名となり、昨年度末実績の約1.4倍となった。また、「読者とのコミュニケーション」を図るため、広報紙・ホームページ上で、アンケートを実施し読者の意見を集めた。読者からの指摘事項の中で改善できるものに対しては、23年度順次反映させる準備を進めている。

ホームページは、21年度までのhtmlでのページ作成方法から、コンテンツ管理システムを導入し、各課の公開記事を一元管理できる環境とした。管理システムを導入することで、各課が比較的容易にページ更新できるようになり、情報を迅速に発信でき効果的であった。情報公開については今後も最新・迅速・信頼を求められるため、インターネットを通じて歴史・文化・スポーツ、国際交流、観光に至るまで幅広い情報を発信し、新規参加者の増加や参加者の満足度の向上を図っていく。

<財団の管理運営>

9-2-(1)・(2) 人事管理・人材育成・給与 …324 ページ

新宿区生涯学習財団と新宿文化・国際交流財団を機能統合し、事業の質を低下させることなく、観光事業等も取り入れた総合的な事業を展開するため、全7課にわたる組織を構成した。また、ガバナンス、コンプライアンスの徹底を目指し、新たな規程、規則等を策定するとともに、課単位で人事労務管理を徹底させる体制をとった。また、平成23年度当初に、さらなる経営基盤の安定を図るため、初めて一般公募による課長職を新規採用するとともに、正規職員4名の採用も行った。

職員の能力向上と組織力の強化を図るため、ビジネスマナー、内部統制、コンプライアンス、目標管理等のeラーニング研修、管理職の通信教育を実施したが、受講率の低い科目もあった。平成23年度は、eラーニングだけでなく集合研修を充実させ、受講率の向上を目指す。

職員からの豊富なアイデアを財団運営に生かすため、職員提案制度を実施し、計139の提案を受けた。平成23年度予算に反映した提案もあり、要綱に基づいて最優秀、優秀等の評価を行い表彰を実施する。平成23年度も引き続き職員からの提案を募り、人材育成、組織力の向上に役立てる。

また、平成23年度は、財団運営にとって有用な資格を取得する意志のある職員に対し、講習会への参加や資格試験に対する補助などの支援を実施する。

給与計算業務については、これまで業者委託というかたちをとっていたが、平成 22 年度は新たに給与システムを導入し、当財団の職員が給与計算業務を行った。移行当初はシステムの設定、操作方法の習得等で時間を費やしたが、徐々に効率的に事務を執行できるようになった。今後も組織規模の拡大に対応するため、給与事務のさらなる効率化を推進する。

また、今後は、職員に対する福利厚生制度のさらなる充実を図る。平成 23 年度は 40 歳以上の正規職員に対し、人間ドックの受診を支援していく予定である。

9 - 2 - (3) 予算・決算・財務・経理・契約 ...328 ページ

公益法人化に伴い会計処理を変更・整理するとともに、外部監査を本格導入し、会計処理の透明性、信頼性の確保や関連事務の効率化を進めた。また、(財)新宿文化・国際交流財団との機能統合による清算処理を終了し残余財産を引き継いだ。事業実績に関しては、機能統合前の両財団の事業について質を低下させることなく、経費を抑制し、事業成果や収益を高めることができた。さらに、資産の有効活用を図るため、資産運用について具体的な方向性を決定した。

今後は、収益性の高い自主事業の開発や「選択と集中」の効果的な経費配分による費用対効果の向上、寄付金収入など事業参加料以外の収益の強化、より効果的な資産活用方法の検討を進める必要がある。また、公益財団法人としての円滑な会計事務の確立や予算管理におけるコンプライアンスの徹底も図っていく。

9 - 2 - (4) 総務・庶務・文書 ...330 ページ

財団法人新宿文化・国際交流財団との機能統合を果たし、公益財団法人として「民による公益の実現」というミッションを達成するため、新財団の定款ならびに諸規程・規則等の策定、全 7 課に渡る新組織の構築を行った。また、公益目的事業ならびに収益事業において設定した成果指標において、大多数の事業で指標を達成する実績を上げることができた。事業および組織規模が大幅に拡大したため、各課単位での人事・労務管理、事業執行状況のチェック体制を強化するとともに、進捗状況を一元的に把握・管理する運営体制を確立した。さらに、新しい法人を PR するため、ホームページをリニューアルしたことにより、アクセス数が大幅に向上した。

今後は、収支効率に優れた自主事業の開発とともに、社会環境の変化に適合しなくなった事業の改廃を進め公益目的事業のさらなる充実、区民ならびに都民に対するサービスの向上、財政の効率化による財団経営の自立化を推進していく必要がある。また、財団運営におけるコンプライアンス、ガバナンスの徹底や、事務効率の向上も並行して進め、財団経営の基盤を強化していく。

東日本大震災の対応

〈震災発生当日〉

3月11日午後2時46分、東日本大震災が発生した。管理施設において、利用者の安全確保をし、地震の終息を待って、避難誘導を行った。夕刻から次第に帰宅困難者が各施設に集まりはじめ、新宿文化センターの約450名をはじめ、コズミックセンター約150名など、合計約650名を翌日にかけて受け入れた。

〈被災者の受け入れ〉

コズミックセンターは、被災者の避難所として3月22日から被災された方々を受け入れた。区、社会福祉協議会および財団職員が主に対応にあたり、被災者の次の避難先が決定したことに伴い、4月末日をもって受け入れを完了した。

〈施設の被災〉

各施設ともガラスのひび割れなど軽微な被災状況であり、利用再開に大きな支障がなかったため、安全点検を行った後、12日より営業を再開した。しかしながら、新宿文化センターにおいては、大ホールおよびロビーの壁面タイル剥落の可能性が否定できないため、4月1日に利用を中止し、7月25日まで壁面工事等を実施することとなった。

〈節電〉

4月1日以降、電力需給状況の逼迫のため、各施設において節電対策として、利用の自粛や中止の対応をとった。同様に、財団主催事業についても中止した。6月1日より通常どおりの営業を再開したが、夜間の営業については依然中止の対応をとっている。